

平成 2 1 年度 長良川河口堰調査検討会報告書

平成 2 2 年 3 月 2 4 日

1 はじめに

長良川河口堰は、平成7年7月6日、全ゲートの降下が完了（ゲート操作を開始）し、以降本格運用がされ14年が経過した。

河口堰の運用にあたっては種々の懸念が表明されたが、岐阜県においては、この懸念に対し、国や事業者（水資源機構）が十分な対策をとっているかについて調査・検討を行うため、平成5年に長良川河口堰調査検討会を組織した。

この検討会では、県民各界の代表者により長良川河口堰県民調査団を編成し、長良川の水環境や自然環境の保全及び治水などについて、計画・実施された対策が十分機能しているかについて調査・検討を行ってきた。

事業者においても、河口堰の管理・運用後河口堰の治水・利水の効果や環境への影響などモニタリングを実施するとともに、学識経験者を中心とした「長良川河口堰モニタリング委員会」（平成7年度～平成11年度）、「中部地方ダム等管理フォローアップ委員会（堰部会）」（平成12年度～平成16年度）により審議されている。管理の開始から10年目にあたる平成16年度には「中部地方ダム等管理フォローアップ委員会（堰部会）」において、河口堰の運用後の環境の変化は概ね安定しており、総じて問題のないことが確認された。なお、「堰部会」は平成16年度をもって解散し、平成17年度より「中部地方ダム等管理フォローアップ委員会」で審議されている。

当検討会では、県民調査団の調査の結果、問題として提起された事項及び事業者によるモニタリング結果を受け、種々の対策やその効果について「理解及び確認できた事項」、更なる対策を「要望及び推移を見守る事項」として整理した。「要望及び推移を見守る事項」については、問題点への対応について継続して検討を行い、必要な事項については知事に提言を行うこととしている。

今回で通算16回目の開催を重ねた長良川河口堰調査検討会では、平成21年度の長良川河口堰県民調査団に参加された方々からのご意見及び平成20年度長良川河口堰モニタリングの結果をもとに討議を尽くした。

本書は、この検討会の議事録を要約したもので、これをもって平成21年度長良川河口堰調査検討会の報告書とする。

2 平成21年度県民調査団と平成21年度調査検討会の経過

平成21年度長良川河口堰県民調査団（通算32回目）

実施日：平成21年10月26日

調査テーマ：（1）水質保全対策について
（2）環境保全対策について
（3）河口堰管理状況について

調査場所：水質自動監視装置「ナガラちゃん」、長良導水、長良川河口堰、アクアプラザながら

調査メンバー：長良川河口堰調査検討会委員、水防団（岐阜市、羽島市、海津市）、消防団（輪之内町）、漁業協同組合（海津市、美濃市、郡上市）、婦人会（大垣市）、女性部（羽島市）、岐阜県土地改良事業団連合会、高須輪中土地改良区、ぎふ女性大学の会、県議会議員、関係市町議会議員（輪之内町、北方町）、関係市町（岐阜市、羽島市、瑞穂市、海津市、大垣市、輪之内町、北方町）、公募による参加者

平成21年度長良川河口堰調査検討会（通算16回目）

開催日：平成22年2月22日

開催場所：ホテルグランヴェール岐山 3階 末広の間

報告事項：県民調査団の実施報告、長良川河口堰の管理状況、フォローアップ委員会資料

討議内容：（1）水質・底質について
（2）魚類について
（3）その他（治水対策などについて）
（4）まとめ

討議参考資料：

- ・平成20年度 長良川河口堰調査検討会 報告書
- ・平成21年度 長良川河口堰県民調査団 実施状況、要約意見書及びアンケート結果
- ・長良川河口堰調査検討会の記録(平成19年9月)
- ・長良川河口堰の最近の管理状況について
- ・平成21年度中部地方ダム等管理フォローアップ委員会年次報告(平成20年)について
- ・INFORMATION 長良川河口堰

3 まとめ

本検討会では、長良川河口堰県民調査団の調査結果について、「水質・底質」、「魚類」及び「その他」の事項として治水対策などを中心に討議を行った。

この結果、生態系・環境・防災面の現状と講じられている対策について、多くの事項については理解し、確認できたと判断した。一方で、今後も継続して調査を要する事項もある。

当検討会としては、今後とも長良川河口堰の治水効果や環境面への影響等について注意深く推移を見守っていく必要を認め、堰運用上の課題を引き続き検討することとし、本検討会は継続するものとする。

平成22年3月24日

長良川河口堰調査検討会議長

河村 三郎

平成21年度 長良川河口堰調査検討会の要約

(その1)

大項目	小項目	細目	討議の要点	理解及び確認できた事項	要望及び推移を見守る事項	
環境	底質	底質の状況	堰直上下流の底質について	<ul style="list-style-type: none"> ・長良川では、平成11年や平成16年のような大きな出水が発生すると、河底の粒度分布状況が細粒土砂から粗粒土砂に変わる傾向が見られることを理解した。 ・長良川河口堰運用後も、底質は経年的に悪化傾向にないことを理解した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も調査を行い、推移を見守っていく必要がある。 	
		水質	水質の状況	長良川の水質について	<ul style="list-style-type: none"> ・長良川河口堰運用後も、水質は経年的に悪化傾向にないことを理解した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も調査を行い、推移を見守っていく必要がある。
			水質自動監視装置について	<ul style="list-style-type: none"> ・水質自動監視装置「ナガラちゃん」において、塩化物イオン濃度等10項目にわたる水質等の監視を行い、一定の基準値を超える場合は、巡視や水質改善対策、或いは関係機関への情報伝達等の対応を図っていることを理解した。 		
	魚類	魚類の遡上	長良導水について	<ul style="list-style-type: none"> ・愛知県知多半島地域に水道水として供給している長良導水で取水している水は、愛知県企業庁で行っている水質検査で色、におい、味覚等の快適水質項目について、基準値に適合していることを理解した。 		
			稚アユの遡上数について	<ul style="list-style-type: none"> ・平成21年の左岸呼び水式魚道(陸側階段部)のアユ実測遡上数は、過去最高だった平成20年に次ぐ遡上数が確認され、長良川河口堰の魚道は順調に機能していることを理解した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も調査を行い、推移を見守っていく必要がある。 	
			アユの小型化について	<ul style="list-style-type: none"> ・アユが成長不良で小型化しているのは、長雨、増水及び日照不足による餌となる藻類が十分に繁殖ができなかったことや釣り人が川に入れる日が少なかったため、アユが間引きされなかったことが要因と考えられることを理解した。 		
	魚類	魚類の生息環境	アユの調査について	<ul style="list-style-type: none"> ・長良川のアユは、養殖放流や人工ふ化事業によるもの等、多様であり、それぞれどのような履歴があり、また左岸呼び水式魚道(陸側階段部)で計測している稚アユ遡上数は、長良川全体でどの程度なのか等、長良川のアユ生息環境調査の重要性を確認した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学術的調査の知見を得る等、関係機関と調整していく。 	

平成21年度 長良川河口堰調査検討会の要約

(その2)

大項目	小項目	細目	討議の要点	理解及び確認できた事項	要望及び推移を見守る事項
利水	利水	利水	木曽川水系の水需給について	<ul style="list-style-type: none"> ・近年の年間総雨量は小雨化傾向にあり、ダム等の水資源開発施設の供給能力が低下してきている状況において、木曽川水系水資源開発基本計画（フルプラン）では10年に1度程度発生する渇水に対して、都市用水の需給バランスが図られるよう利水計画がされていることを理解した。 	
その他	その他	広報活動	広報の工夫について	<ul style="list-style-type: none"> ・河口堰視察、見学参加者に対し、より理解を得られるような説明内容とする等、長良川河口堰への正しい理解を深めてもらうよう配慮する。 	